子ども食堂を助けたい!

山形県立米沢興譲館高等学校　2年

緒言

近年、子ども食堂という取り組みをよく耳にする。地域創生や地域福祉などの役割を果たす子ども食堂をもっと身近に感じてもらえないかと考え、このテーマを立てた。

1.現状分析

■調査1　全国の子ども食堂設置数の推移

参考:認定NPO法人 全国こども食堂支援センター・むすびえ

■調査2

子ども食堂の認知度を測るアンケート調査

・実施日　令和６年８月

・対象:本校２年生　約200名（回答率35%）

　　本校教員　　約 40名（回答率48%）

■調査3

子ども食堂運営団体２か所での訪問調査

2.課題の整理

■調査2より

①大人より高校生の認知度が低い。

②置賜地域にもあることを知らない。

③子ども食堂のボランティアに興味を持っている高校生が多い。

④"子ども食堂＝地域食堂"という認識が薄い。

■調査3より

⑤スタッフの高齢化⇒人手不足によりスタッフの負担が増加している。

⑥コロナ禍以降の利用者が減った。

3.仮説の設定

スタッフの方の負担を減らしつつ、高校生に子ども食堂やボランティア活動を身近に感じてもらうために私たちにできることがあるのではないか。

4.課題解決に向けた実践活動

■活動1　行き先がわかるフードドライブ

225点の食品を寄付して頂いた。行き先を知ってもらうことで、寄付をして頂いた方々に子ども食堂を身近に感じてもらうきっかけになった。　⇒課題①②④⑥と関連

8月　興譲祭で実施

■活動２　高校生と子ども食堂をつなぐボランティアの仕組み

運営団体とのつなぎ役を担った。主に教育関係を志望する興譲館生に向け、ボランティアを募集する仕組みを作り、3回目は献立作成、　買い出し、調理など運営も行った。高校生が関わることでスタッフの方の負担を減らすことにつながることを実感した。　⇒課題①②③⑤⑥と関連

計10名の生徒がボランティアとして参加

5.まとめ・展望

高校生と運営団体をつなぐことで、双方に良い効果が生まれることが分かった。こうした活動を継続することで、運営スタッフの負担を減らし、持続可能な子ども食堂を目指せるのではないだろうか。また、子ども食堂を地域の団らんの場として身近に感じてもらうことは、災害時での食事支援や孤食対策にも役立つとも考えている。

謝辞・研究協力

一緒にごはんの会(おいたま女性クラブ)

米沢こども食堂(米沢市母子寡婦福祉連合会)

朝ごはん食堂（ NPO法人スマイルハウス）

地域食堂 みんなつながるサロン(NPO法人から・ころセンター)

米沢市役所こども家庭課

*写真掲載の許可を頂いております